令和６年１０月３１日

６年生保護者のみなさま

羽曳野市立はびきの埴生学園
校　長　東　　浩　朗

令和６年度「全国学力・学習状況調査」について

清秋の候、保護者のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度実施いたしました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

令和６年度「全国学力・学習状況調査」分析結果

１．はじめに

全国の６年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は４月１８日に国語・数学が実施されました。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

既に配布しました個人結果とあわせてご覧いただき、ご家庭でも本調査の結果についてお話していただきますよう、よろしくお願いいたします。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

２．結果の分析と今後の課題

（１）国語

【成果】

基本的な知識や漢字の書き取り問題、短い言葉で答える短答式の問題は、他の分野よりも正答率が高く、日々の漢字の学習・宿題や漢字テストなどの積み重ねの成果が出ているといえる。

【課題】

人物像や物語の全体像を具体的に想像し、文章を読み取って書くという記述式の問題は、正答率が全国より 23.6 ポイント、府より 21.8 ポイント低く、また、無解答率が全国より 12.9 ポイント、府より 12.6 ポイント高かった。

これは、本校の昨年度の結果と比較してもあまり改善傾向が見られなかった。

無回答率の高さから、時間がなく問題の最後までたどり着けなかったということや書くことへの苦手意識が強く、答えを書こうとする意欲の低さがあると見られる。

【課題克服のために】

国語科だけでなくあらゆる教科の学習のなかで、文章や図・表などからの情報を自分の言葉で簡潔にまとめる活動に取り組み、読み取る力の育成を図る。

引き続き授業のなかで、自分の学びや考え方を書くことに取り組むことで、書くことに対する苦手意識を低下させていきたいと考える。

また、まずはどうやって書けばよいのかわかるように、言葉を入れて文を完成させたり、文をつくる際の型を例示したりするなどして、段階を踏みながら「書く」力の育成に取り組んでいく。

（２)算数

【成果】

他の領域と比較し「数と計算」の正答率が、全国より 3 ポイント、府より 3.7 ポイント高く、日ごろの授業で反復を繰り返し、基礎・基本の計算問題を大切にしている成果だと考えられる。

また，同じように「データの活用」の正答率も、全国より 1.7 ポイント、府より 2.8 ポイント高かった。データの傾向を様々な見方で比較し考察する活動を意識して取り入れたことが表れたと考えられる。

【課題】

領域別で「図形」の正答率が全国より 9.9 ポイント、府より 8.8 ポイント低く、また「変化と関係」の正答率が全国より 13.1 ポイント、府より 12.3 ポイント低かった。なかでも、同じ距離でかかった時間が異なる 2 人を比べてどちらが速いか考えてその理由を書く問題や、立方体の体積の求め方を式に表す問題について、課題が見られた。

【課題克服のために】

引き続き、基本的な知識・技能の定着や基礎・基本の計算の学習を大切にしていくとともに、式や図などを使って、自分の考えや理由を書いたり説明したりする活動を日常的に行う。

また、「図形」の領域の授業のなかでは、具体物を使ったりタブレット端末を活用するなどして、立体を平面に展開するイメージを持てるよう工夫する。

３．児童質問紙より

【求められる学力を育む授業をつくる】

設問　「5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」

⇒「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 4.9 ポイント、府より 3.2 ポイント低くなっている。ふりかえりの交流や発表、教師からの声かけなど授業のなかで児童の主体性を育む取組みがさらに必要であると考えられる。

設問　「5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」

⇒「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 6 ポイント、府より 6.2 ポイント低くなっている。授業のなかで、自分の考えを順序だてて整理・構成する体験を積ませ、自信を持って発表できる力をつけさせていく必要がある。

設問　「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」

⇒「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 2.2 ポイント、府より 4.7 ポイント高くなっており、経年で比較しても上昇傾向にある。授業や特別活動などで自分の意見を伝え、人の意見を受け入れる経験を多く積んできた成果だと考えられる。

【自学自習について】

設問　「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」

⇒今年度より新しく追加された質問で、「できている」「どちらかといえばできている」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 9.5 ポイント、府より 8.2 ポイント低くなっている。自己調整しながら自分にあった学習方法を探求していけるように、毎時間の授業のなかでふりかえりを充実させていく必要がある。

設問　「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」

⇒選択肢のうち一番多かったのが「30 分以上 1 時間以下」（34.6%）で、あった。学校が推奨している 6 年生の学習時間の 60 分に届いていない児童の割合が全国・府より高くなっていた。毎日の宿題に加えて、自主学習の

習慣をつけるため、自主学習ノート展覧会の開催やタブレット端末の効果的な活用などの取組みを進めていく必要がある。

４．おわりに

今回の全国学力・学習状況調査の分析より、成果や課題が見えてきました。特に課題については、子どもたちの実態に即した取り組みを進めて行くことで、本校の「めざす子ども像」につながっていくと考えております。

これからも子どもたち一人ひとりの成長を、私たち教職員とともに見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。